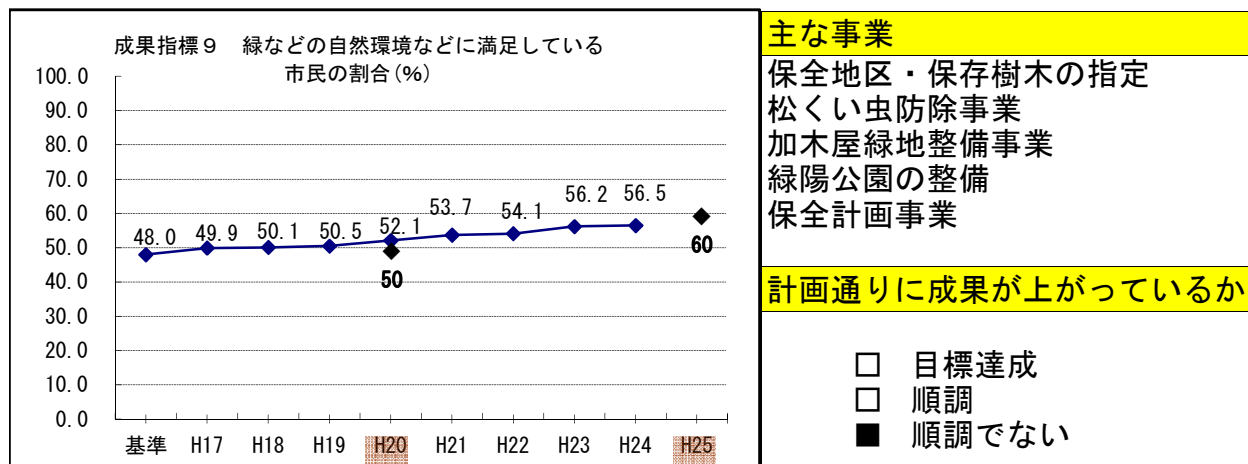
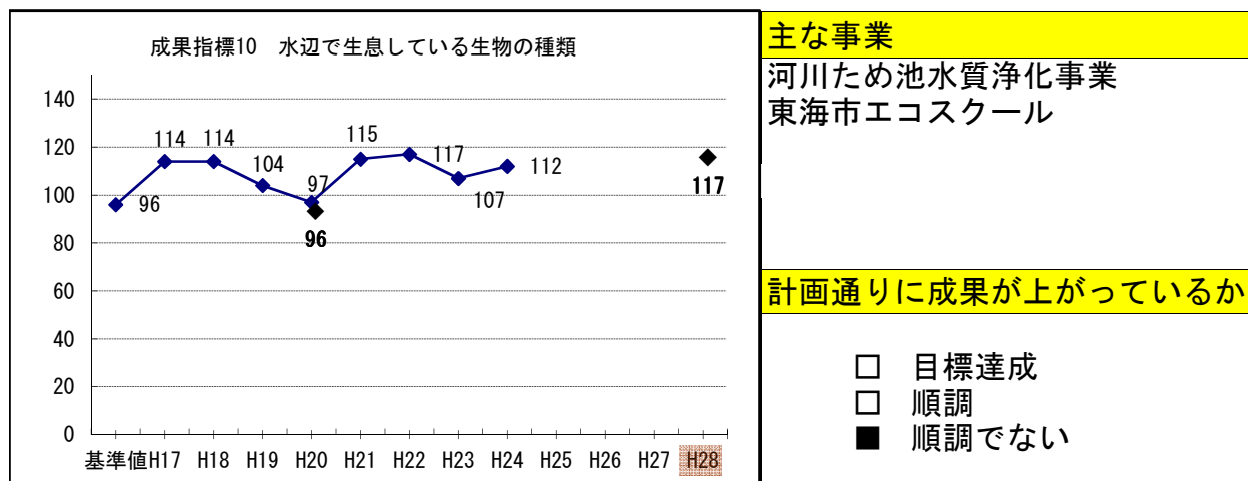


柱	2 生活環境
分野	E 自然
ビジョン	次世代につなげる生命（いのち）ある自然環境の保全



成果指標の分析

緑などの自然環境に満足している市民の割合は、56.5%で年々増加傾向にあるが、目標値には達していない。年齢別では、16～49歳で約60～70%でほぼ目標値を達成しているが、50歳以上は50%代前半で目標値に達していない。職業別ではパート・アルバイト、学生は約60～68%と目標値に至っているが、その他は達していない。学区別では近くに大池公園がある平洲学区では73.8%と最も高く、緑陽学区は47.6%と最も低い。また、男女別では男性の方が少し低い値となっている。



成果指標の分析

24年度は昨年度と比較し、5種類の生物が増加している。内訳としては、鳥類がー2、魚類が＋5、水生昆虫が＋2、水生植物が±0である。ここ数年大幅な変化は見られず、目標を達成していない。

成果が向上する余地（可能性）は？

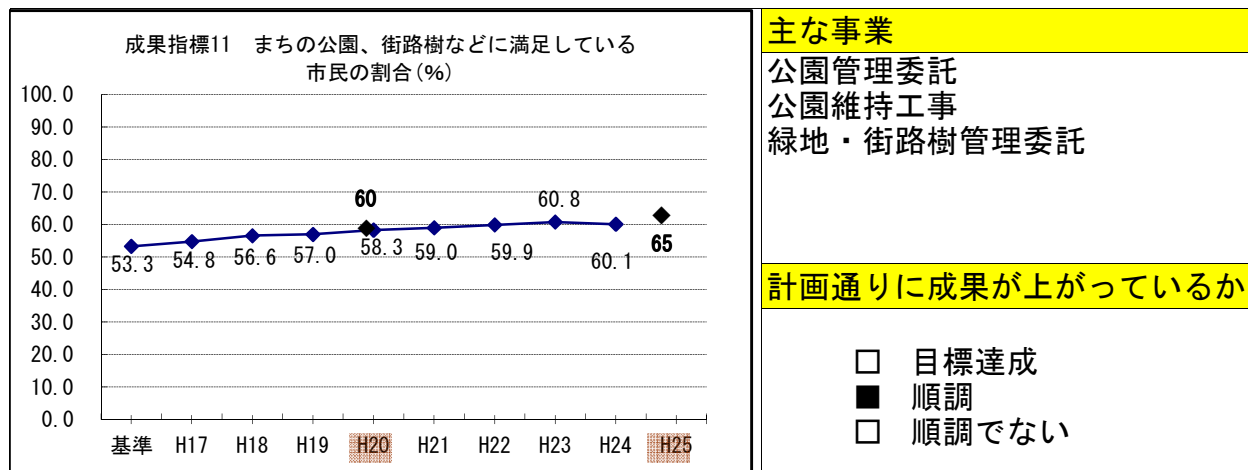
☐ 大 ☒ 中 ☐ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

緑の基本計画に基づき加木屋緑地や緑陽公園等の整備・保全を進めるほか、保全地区・保存樹木未登録者の登録推奨、緑の保全のための調査研究を実施することにより成果向上の余地はある。

水辺で生息している生物の種類は、下水道の整備や河川に関するエコスクールを開催することにより河川環境に対する啓発や意識向上を行っていく。

柱	2 生活環境
分野	F 公園・緑地・景観
ビジョン	花と緑あふれる心安らぐまちづくり



成果指標の分析

満足度は、僅かではあるが年々増加傾向にあったものが、0.7%減少しているが統計誤差の範囲であり、全体でみると増加傾向であるが、10年後の数値には達していない。年齢別では16～19歳が、63.6%で最も高くめざそう値に近い。職業別では、58.8%から61.8%の間でばらつきはあまりない。男女別では男性より女性の方が3%程度高い数値になっている。管理の推進に伴い数値は向上しているが、個人の価値感の違いにより鈍化していると思われる。

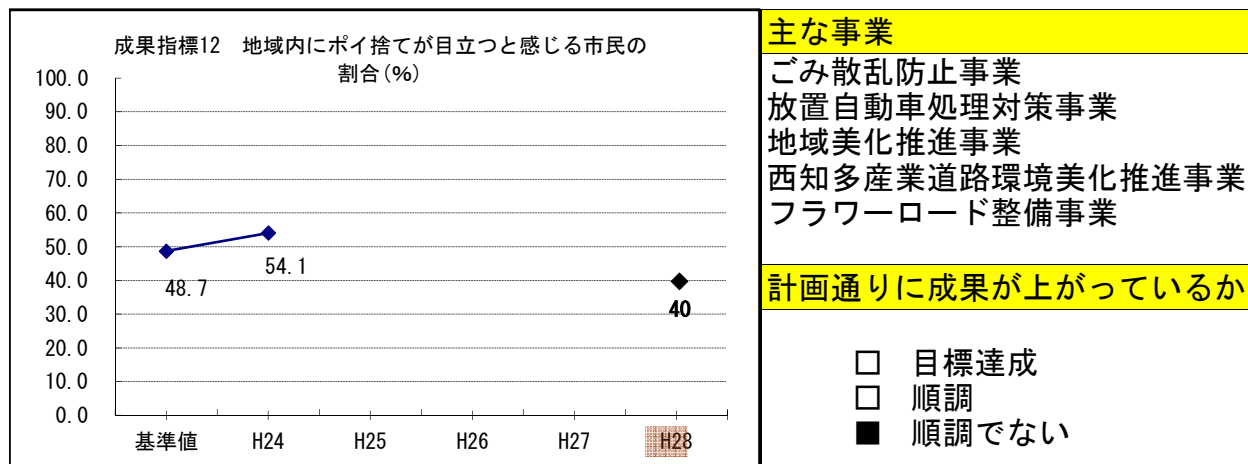
成果が向上する余地（可能性）は？

☐ 大 ☒ 中 ☐ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

引き続き、公園や環境保全林の整備を進めるとともに、宅地開発業者等に緑地の保全・確保に努めてもらう。また、公園整備においては、地域住民の意見を反映したワークショップ方式での公園づくりを進めていくことにより成果向上の余地はあると考えている。

柱	2 生活環境
分野	G 環境美化
ビジョン	道路も公園も自分の庭 めざそうポイ捨てゼロのまち



成果指標の分析

平成24年度は、基準値に比べ5.3%悪化した。校区毎に比較すると、船島66%、明倫64.2、平洲地区61.3%の順で悪く、三ツ池33.3、富木島48.3、渡内地区48.7%の順で良い。平成28年度の目標値の40%を達成している校区は、三ツ池地区のみである。

成果が向上する余地（可能性）は？

☐ 大 ☒ 中 ☐ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

市民にポイ捨てをしないようモラル向上が必要であり、啓発活動や地域美化活動の促進を図ることが必要。

柱	2 生活環境
分野	H 交通
ビジョン	環境に配慮した安心便利な交通システムの整備

成果指標13 環境に配慮してマイカーの利用を工夫している市民の割合(%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H17</td><td>44.5</td></tr> <tr><td>H18</td><td>45.6</td></tr> <tr><td>H19</td><td>44.7</td></tr> <tr><td>H20</td><td>45.0</td></tr> <tr><td>H21</td><td>42.0</td></tr> <tr><td>H22</td><td>42.8</td></tr> <tr><td>H23</td><td>43.2</td></tr> <tr><td>H24</td><td>61.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	割合(%)	H17	44.5	H18	45.6	H19	44.7	H20	45.0	H21	42.0	H22	42.8	H23	43.2	H24	61.0	主な事業 エコスクール事業 計画通りに成果が上がっているか ☐ 目標達成 ☐ 順調 ☒ 順調でない
年度	割合(%)																		
H17	44.5																		
H18	45.6																		
H19	44.7																		
H20	45.0																		
H21	42.0																		
H22	42.8																		
H23	43.2																		
H24	61.0																		
成果指標の分析 「環境に配慮してマイカーの利用を工夫している市民の割合」は0.4%向上したが、ほぼ横ばいといえる。工夫の内容としては、アイドリングストップが前年に比べ3.2%アップして33.8%となったが、徒歩や自転車を利用している割合が前年より減少している。																			
成果が向上する余地（可能性）は？	☐ 大 ☒ 中 ☐ 小																		
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針 指標値の改善には、市民、企業の環境保全に配慮した活動を促進のためのエコスクール事業や啓発事業等の内容を見直し、充実させることにより成果向上する余地がある。また、市内一斉清掃日等の市民参加を増やし、環境への関心を高める。																			